【企業動向調査（製造業）概況】

2025年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業94社）を行った結果、業況判断指数ＤＩは▲ 9.5ポイントとなりました。

前期調査結果（2024年10月～12月期：1.7ポイント）と比較して11.2ポイント悪化しました。

その他経営上の問題については、「製造スペース不足･仕入れ材料･購入品などの値上げ。若年層の人員不足が深刻(10年先の技術承継が不安)」、「全体的に先行きが不透明で今後の対応策も立て辛い」、「一番は原材料や仕入れ単価の上昇分を取引先に価格反映してもらえないこと」などの意見がありました。

１．今期調査結果は、前期調査結果と比較して「金属」はプラスポイント、「食品」「木材家具」は０ポイント、「一般機械」「電気機械」「その他業種」はマイナスポントとなりました。

業種別の業況判断前期比ＤＩ

食品	▲ 33.3	（前期比：プラスマイナス	0.0）
金属	6.7	（前期比：プラス	28.1）
一般機械	6.6	（前期比：マイナス	16.5）
電気機械	▲ 33.4	（前期比：マイナス	41.6）
木材家具	0.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	▲ 20.0	（前期比：マイナス	35.4）

２．次期予想ＤＩ（2025年４月～６月）

次期予想は▲ 23.9ポイントで、今期調査結果(▲ 9.5)より、14.4ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想ＤＩ

食品	0.0	（今期比：プラス	33.3）
金属	▲ 40.0	（今期比：マイナス	4.3）
一般機械	▲ 33.3	（今期比：マイナス	25.6）
電気機械	▲ 16.7	（今期比：マイナス	8.4）
木材家具	▲ 40.0	（今期比：マイナス	40.0）
その他業種	0.0	（今期比：マイナス	7.7）

３．経営上の主な問題点

「労働力不足（量的なもの)」が69.8%、「原材料・仕入品単価の上昇」が57.1%、「人材不足（技術者等質的なもの)」が49.2%、「受注の減少」が44.4%、「技術力の不足」が15.9%、「納期の短縮」が15.9%、「同業他社との競争激化」が14.3%、「製品販売価格の低下」が4.8%、「金融難」が3.2%、「為替相場の変動」が3.2%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が0.0%となっております。

企　業　動　向　調　査

【 2025 年１月～３月期 <1 期> 】

【調 査 概 要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年４回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は 2025 年１月～３月期＜１期＞の業況について調査した。

【調査実施要領】

実 施 時 期　2025 年４月

対 象 企 業　須坂市内または事業所を有する製造業企業 94 社

回答企業数　63 社 （回答率 67.0%）

【調 査 結 果】

自社業況判断　（ＤＩ＝好転－悪化）

前　期　比：「好転」15.9%（前回 19.4%）、「悪化」25.4%（前回 17.7%）という割合でＤＩは▲ 9.5 となり、11.2 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」27.0%（前回 17.7%）、「悪化」31.7%（前回 30.6%）という割合でＤＩは▲ 4.7 となり、8.2 ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」6.3%、「悪化」30.2%という割合でＤＩは▲ 23.9（前回▲ 12.9)となり、前期より悪化を予想している。

受 注 引 合　（ＤＩ＝増加－減少）

前　期　比：「増加」20.6%（前回 21.0%）、「減少」27.0%（前回 22.6%）という割合でＤＩは▲ 6.4 となり、4.8 ポイント減少した。

前年同期比：「増加」28.6%（前回 21.0%）、「減少」30.2%（前回 37.1%）という割合でＤＩは▲ 1.6 となり、14.5 ポイント増加した。

次 期 予 想：「増加」11.1%、「減少」31.7%という割合でＤＩは▲ 20.6（前回▲ 16.4)となり前期より若干の減少を予想している。

生　産　量　（ＤＩ＝増加－減少）

前　期　比：「増加」17.5%（前回 16.4%）、「減少」20.6%（前回 21.3%）という割合でＤＩは▲ 3.1 となり、1.8 ポイント増加した。

前年同期比：「増加」25.4%（前回 19.7%）、「減少」25.4%（前回 31.1%）という割合でＤＩは 0.0 となり、11.4 ポイント増加した。

次 期 予 想：「増加」11.3%、「減少」33.9%という割合でＤＩは▲ 22.6（前回▲ 16.4)となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価　（ＤＩ＝低下－上昇）

前　期　比：「低下」3.3%（前回 0.0%）、「上昇」38.3%（前回 47.5%）という割合で
ＤＩは▲ 35.0 となり、12.5 ポイント上昇した。
前年同期比：「低下」3.3%（前回 0.0%）、「上昇」58.3%（前回 71.2%）という割合で
ＤＩは▲ 55.0 となり、16.2 ポイント上昇した。
次 期 予 想：「低下」1.7%、「上昇」45.8%という割合でＤＩは▲ 44.1（前回▲ 62.7)と
なり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格　（ＤＩ＝上昇－低下）

前　期　比：「上昇」16.1%（前回 13.1%）、「低下」1.6%（前回 1.6%）という割合で
ＤＩは 14.5 となり、３ポイント上昇した。
前年同期比：「上昇」32.3%（前回 37.7%）、「低下」4.8%（前回 6.6%）という割合で
ＤＩは 27.5 となり、3.6 ポイント若干減少した。
次 期 予 想：「上昇」22.6%、「低下」4.8%という割合でＤＩは 17.8（前回 16.4)と
なり、前期より製品販売価格の上昇を予想している。

資 金 繰 り　（ＤＩ＝好転－悪化）

前　期　比：「好転」12.7%（前回 8.1%）、「悪化」15.9%（前回 14.5%）という割合で
ＤＩは▲ 3.2 となり、3.2 ポイント好転した。
前年同期比：「好転」14.3%（前回 11.3%）、「悪化」19.0%（前回 17.7%）という割合で
ＤＩは▲ 4.7 となり、1.7 ポイント好転した。
次 期 予 想：「好転」4.8%、「悪化」23.8%という割合でＤＩは▲ 19.0（前回▲ 14.6)と
なり、前期より資金繰りの若干の悪化を予想している。

所定外労働時間　（ＤＩ＝増加－減少）

前　期　比：「増加」15.9%（前回 11.3%）、「減少」11.1%（前回 16.1%）という割合で
ＤＩは 4.8 となり、9.6 ポイント増加した。
前年同期比：「増加」17.5%（前回 12.9%）、「減少」15.9%（前回 24.2%）という割合で
ＤＩは 1.6 となり 12.9 ポイント増加した。
次 期 予 想：「増加」4.8%、「減少」17.5%という割合でＤＩは▲ 12.7（前回▲ 12.9)となり
前期より労働時間の若干の増加を予想している。

収　益　率　（ＤＩ＝上昇－低下）

前　期　比：「上昇」13.1%（前回 8.2%）、「低下」23.0%（前回 26.2%）という割合で
ＤＩは▲ 9.9 となり、8.1 ポイント上昇した。
前年同期比：「上昇」19.4%（前回 14.8%）、「低下」30.6%（前回 31.1%）という割合で
ＤＩは▲ 11.2 となり、5.1 ポイント上昇した。
次 期 予 想：「上昇」4.8%、「低下」40.3%という割合でＤＩは▲ 35.5（前回▲ 26.2)と
なり、前期より収益率の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

１位	労働力不足（量的なもの）	（↑　69.8%）
２位	原材料・仕入品単価の上昇	（↓　57.1%）
３位	人材不足（技術者等質的なもの）	（↓　49.2%）
４位	受注の減少	（↓　44.4%）
５位	技術力の不足	（↑　15.9%）
６位	納期の短縮	（→　15.9%）
７位	同業他社との競争激化	（→　14.3%）
８位	製品販売価格の低下	（↑　4.8%）
９位	金融難	（↑　3.2%）
10 位	為替相場の変動	（→　3.2%）
11 位	人員過剰	（→　0.0%）
11 位	取引先の海外シフト化	（↓　0.0%）

※　「↑」前回の順位から上昇　　「→」前回の順位から変動なし
　「↓」前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食　品

前　期　比：「好転」0.0%（前回 0.0%）、「悪化」33.3%（前回 33.3%）という割合で
ＤＩは▲ 33.3 となり、前年同期と変わらない。
前年同期比：「好転」16.7%（前回 16.7%）、「悪化」33.3%（前回 50.0%）という割合で
ＤＩは▲ 16.6 となり、16.7 ポイント好転した。
次 期 予 想：「好転」16.7%、「悪化」16.7%という割合でＤＩは 0.0(前回▲ 33.3)となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前　期　比：「好転」26.7%（前回 0.0%）、「悪化」20.0%（前回 21.4%）という割合で
ＤＩは 6.7 となり 28.1 ポイント好転した。
前年同期比：「好転」46.7%（前回 7.1%）、「悪化」33.3%（前回 35.7%）という割合で
ＤＩは 13.4 となり、42 ポイント好転した。
次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でＤＩは▲ 40.0(前回▲ 35.7)となり、
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前　期　比：「好転」13.3%（前回 23.1%）、「悪化」6.7%（前回 0.0%）という割合で
ＤＩは 6.6 となり、16.5 ポイント悪化した。
前年同期比：「好転」20.0%（前回 15.4%）、「悪化」20.0%（前回 23.1%）という割合で
ＤＩは 0.0 となり、7.7 ポイント好転した。
次 期 予 想：「好転」6.7%、「悪化」40.0%という割合でＤＩは▲ 33.3(前回▲ 7.7)となり、
前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前　期　比：「好転」8.3%（前回 25.0%）、「悪化」41.7%（前回 16.7%）という割合で
ＤＩは▲ 33.4 となり、41.6 ポイント大幅に悪化した。
前年同期比：「好転」16.7%（前回 16.7%）、「悪化」33.3%（前回 33.3%）という割合で
ＤＩは▲ 16.6 となり、前年同期と変わらない。
次 期 予 想：「好転」8.3%、「悪化」25.0%という割合でＤＩは▲ 16.7（前回▲ 8.3)と
なり、前期より悪化と予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前　期　比：「好転」20.0%（前回 25.0%）、「悪化」20.0%（前回 25.0%）という割合で
ＤＩは 0.0 となり、前年同期と変わらない。
前年同期比：「好転」40.0%（前回 0.0%）、「悪化」20.0%（前回 50.0%）という割合で
ＤＩは 20.0 となり、70 ポイント大幅に好転した。
次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」40.0%という割合でＤＩは▲ 40.0(前回 0.0)
となり、前期より大幅な悪化を予想している。

Q10　日銀松本支店が４月１日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数は（DI）は、前回調査（12 月）と比較して、１ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス９ポイントと５ポイント好転し、非製造業は、プラス 14 ポイントと横ばいでした。自社の景況感をどうのように感じておられますか。

Ａ　「好転している」9.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」6.3%、「変わらない」42.9%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」25.4%、「悪化している」15.9%。

Q11　４月２日に米国トランプ大統領が発表した相互関税（日本及び自動車への追加関税（25%）について、貴社の事業に影響出ると予想されますでしょうか。

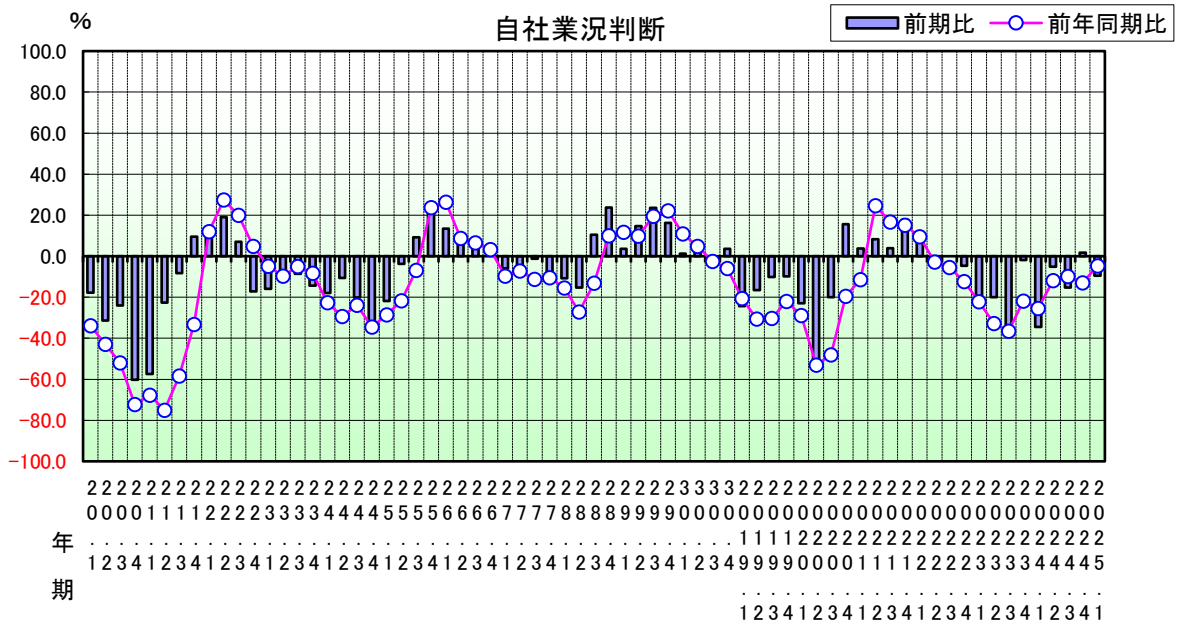
Ａ　「既に影響が出ている」9.5%、「90 日間の停止後に大きな影響が見込まれる」0%、「90 日間の停止後に影響が見込まれる」33.3%、「影響は無い」17.5%、「わからない」39.7%

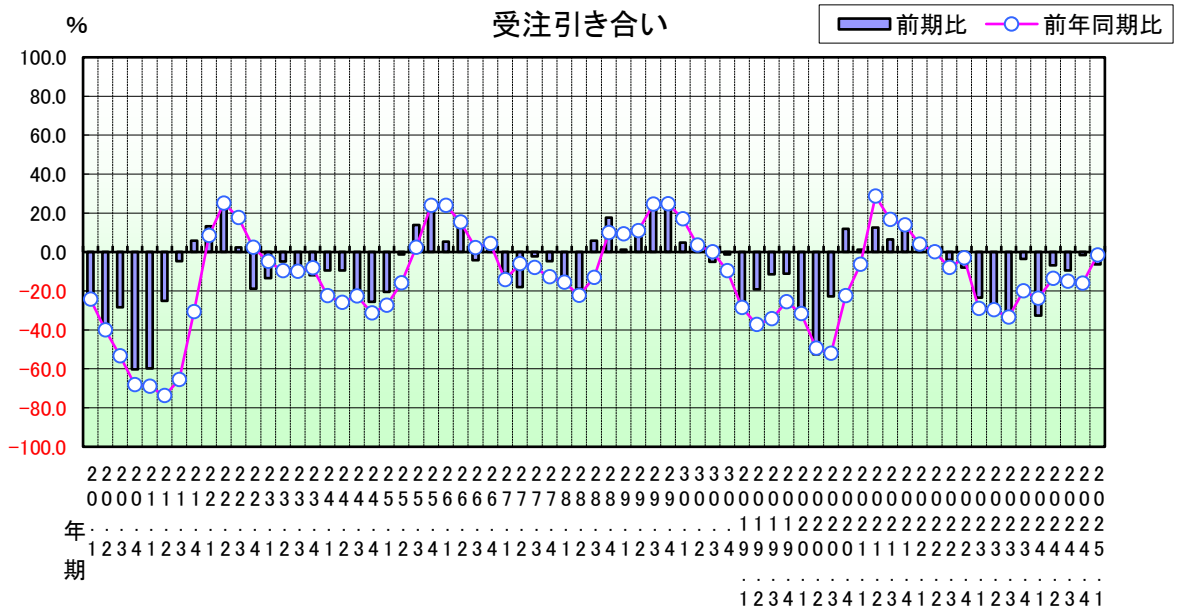
Q12　問 11 にて「既に影響が出ている」または「90 日間の停止後に大きな影響が見込まれる」とお答えなられた方、想定される影響について、具体的にご記入ください。

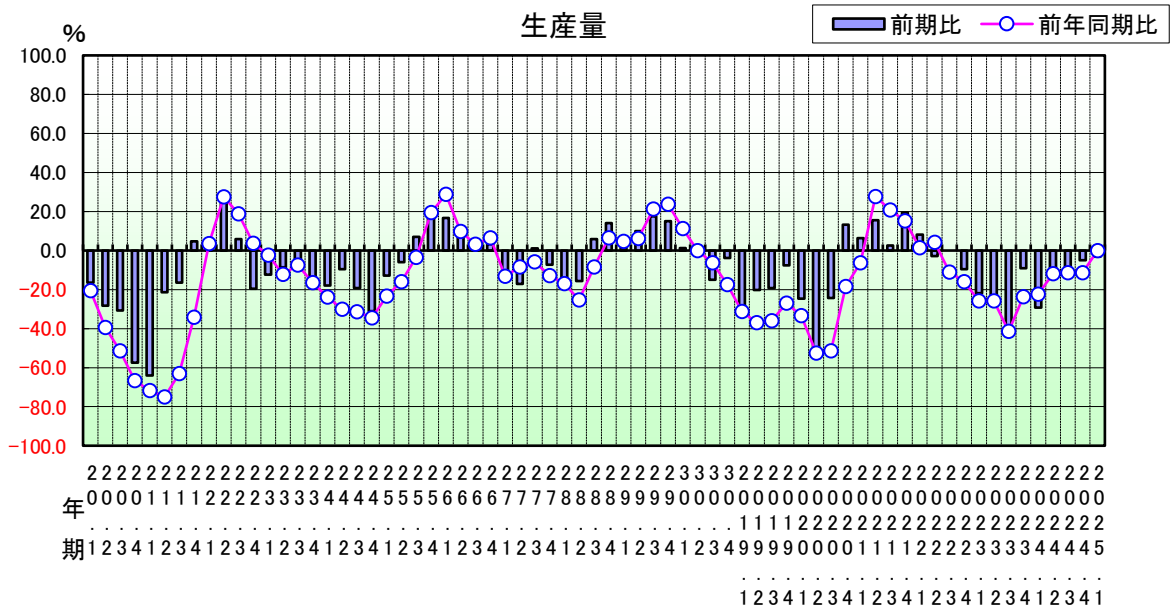
Ａ　「自動車関連の仕事がストップしています」「受注量の減少がすでに出ている」「アメリカ向け製品の見合わせが出た」「受注量減少」「新規案件がストップ。国内生産の見直しによる受注減少」「材料価格の変動」「取引先からの受注減少」「自動車生産減少の場合、売上減少の可能性」

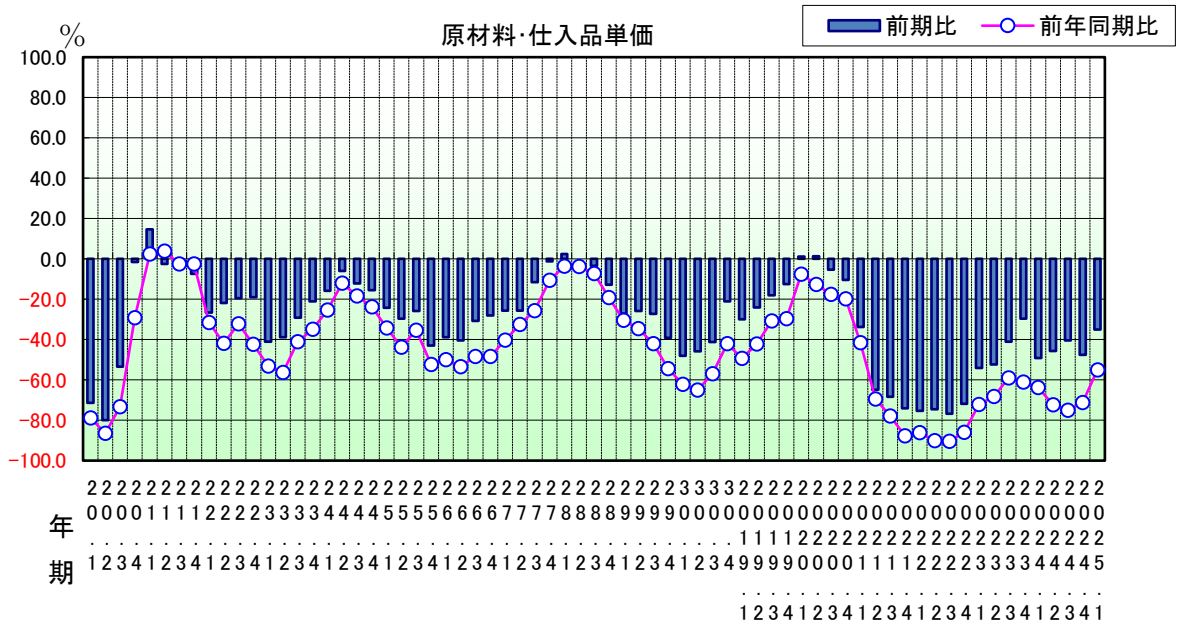
Q13　その他経営上の問題についてご記入ください。

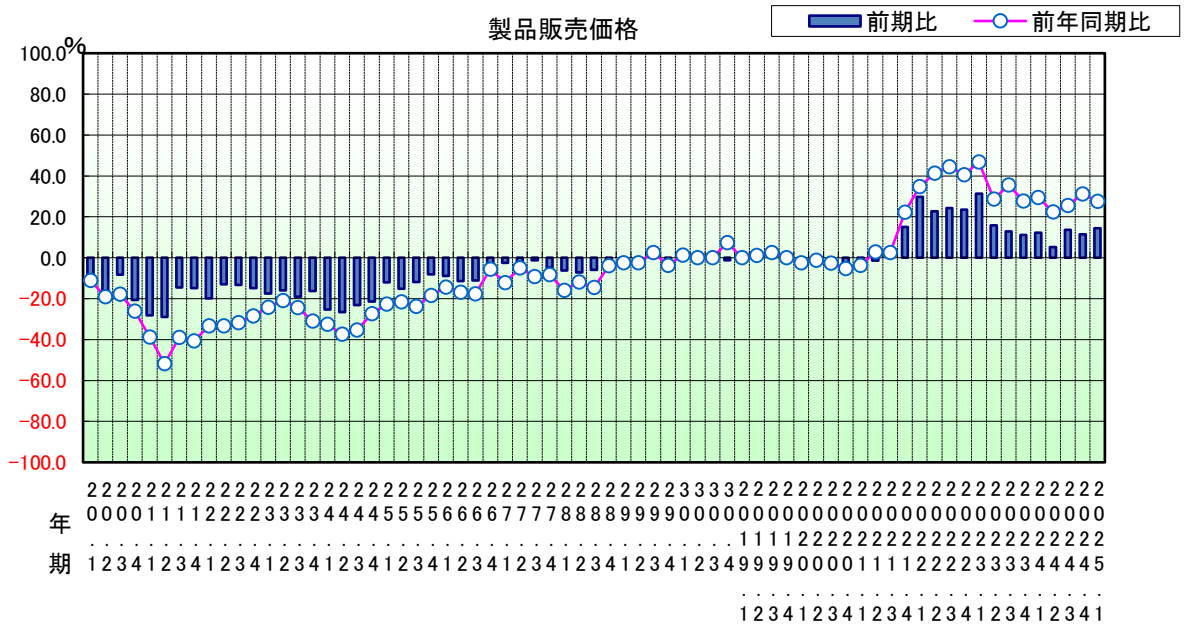
Ａ　「製造スペース不足･仕入れ材料･購入品などの値上げ。若年層の人員不足が深刻（10 年先の技術承継が不安）」「全体的に先行きが不透明で今後の対応策も立て辛い」「一番は原材料や仕入れ単価の上昇分を取引先に価格反映してもらえないこと」「販路拡大、社員教育など多岐に渡り問題があります。こつこつ改善していますが、外的要因により苦戦しています。マインドが下がらないように頑張ります」「老朽化の為、工場移転したいが、そこまでの資金が確保できない」「異業種への参入を目指し、人材確保や研究資金の不足」「半導体業界がなかなか好転してこない」「人材獲得ができなく残業が増え収益率が悪化している。大手人材会社は成功報酬 30％/年収をとるため小零細企業は費用的に厳しい」「トランプ関税について、自社に直接の影響は無いが、中国子会社の米国向け製品への影響が強く懸念される。生産場所を他国へ移すにしても短期間で出来ることではないので、グループ全体への影響は大きい」「取引先の後継者不足、高齢化による廃業」「人手不足」「今年も春闘などで賃金上昇の傾向が景気よく出ているが、この際海外への輸出向けが経済混乱で見通せない中で、受注の減少がすでに出てきている。原材料高騰も高止まりで、今後中小企業が減収・減益の広がりが更に見込まれる。そろそろ中小企業が大苦行に陥っている現実を政府はしっかりと見てもらい、企業を守る方針に舵を切らねば、倒産件数は右肩上がりに上昇し、日本を下支えした中小企業が崩壊するであろうと考えます」「後継者への承継問題」「採用条件が他社と比べて給与（初任給）では差があり、採用が難しい」「経営改善に取り組んだ。今後も受注が安定するか不安がある」等

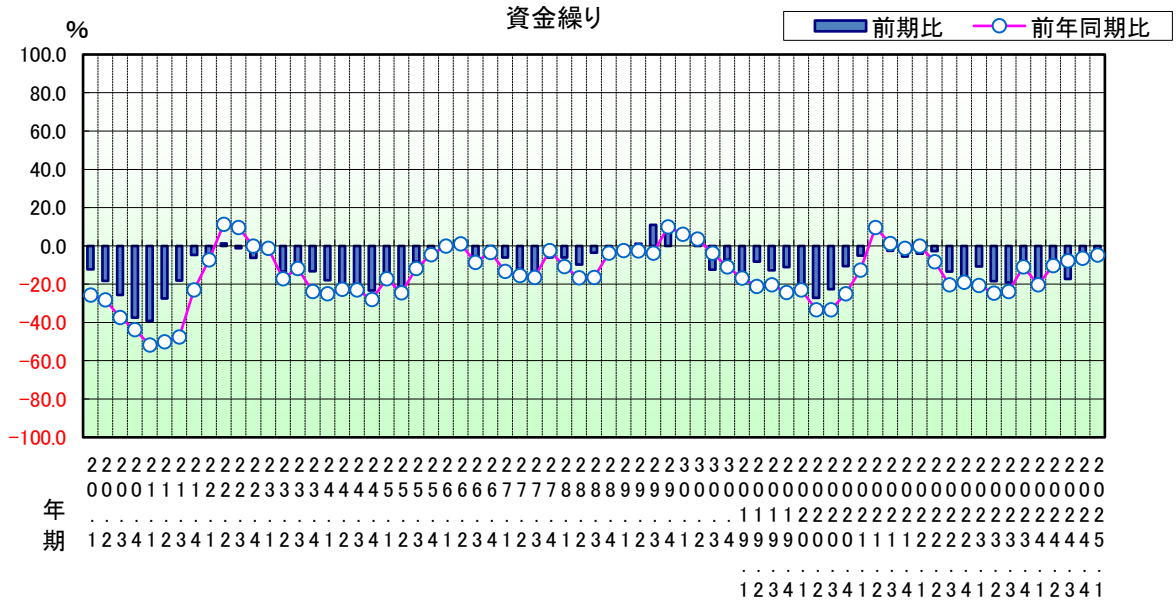

自社業況判断
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期

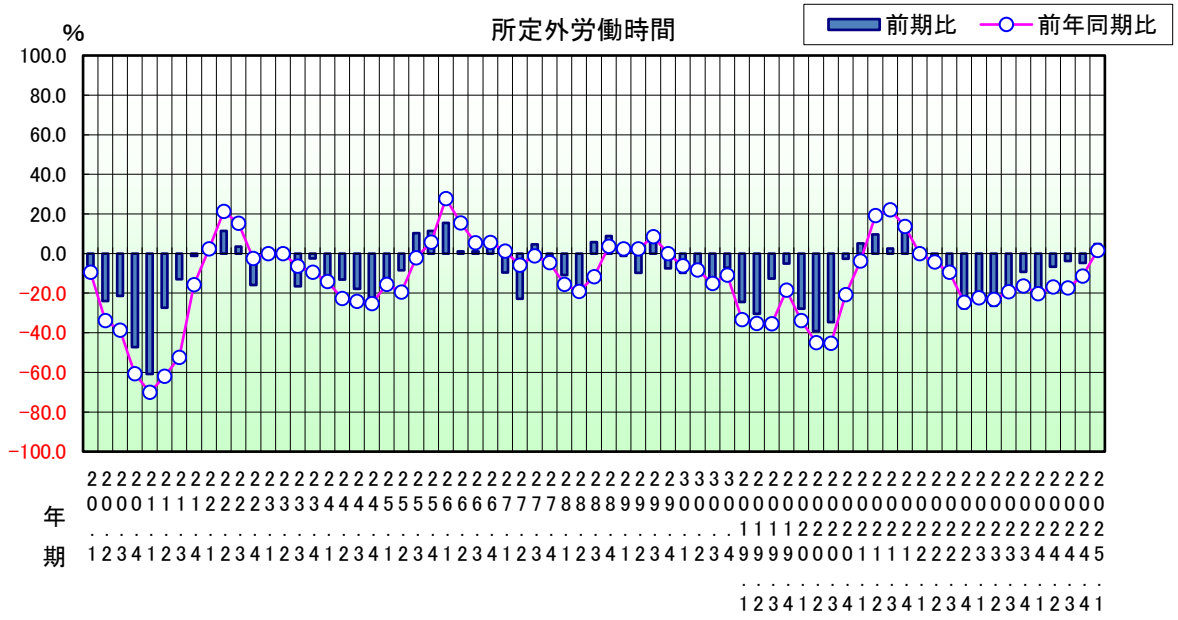

受注引き合い
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期

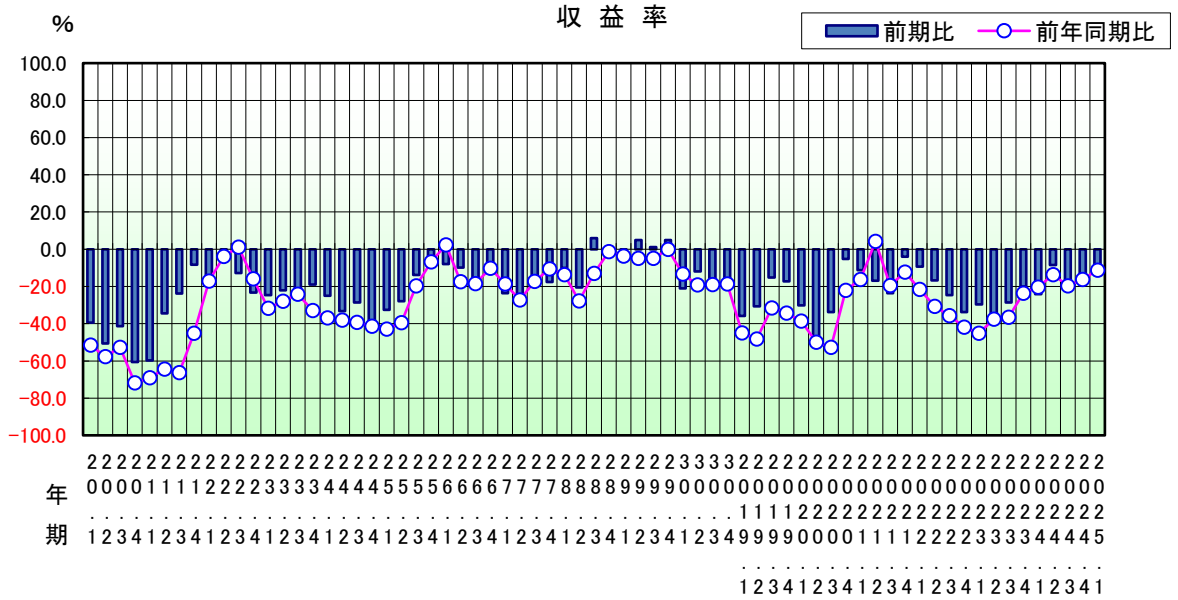

生産量
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期

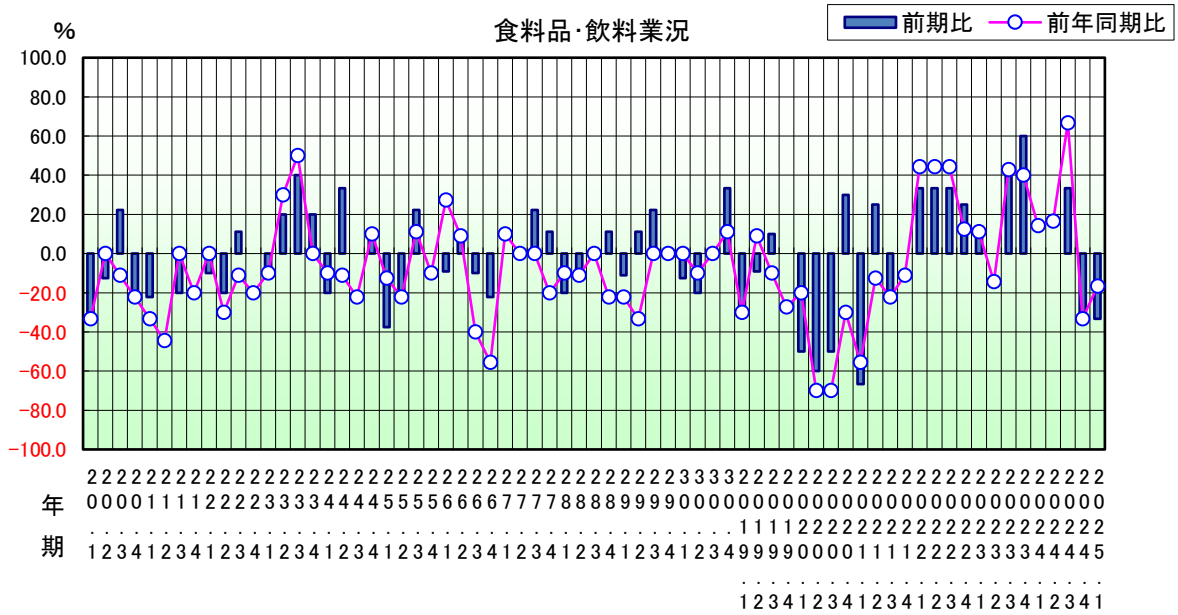

原材料･仕入品単価
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
年
期

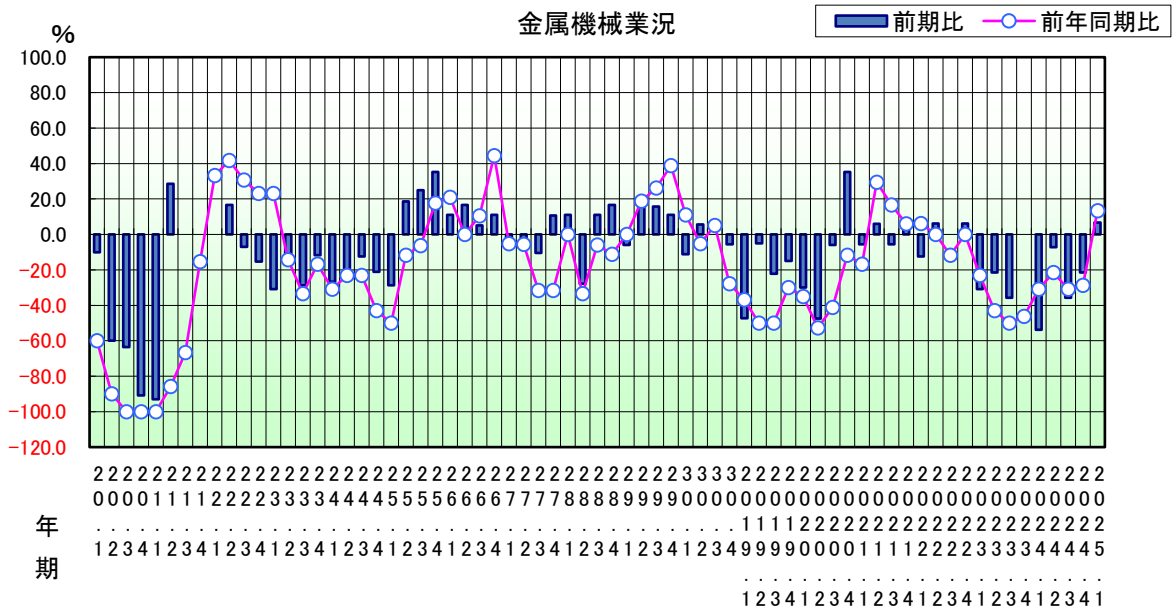

製品販売価格
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
年
期

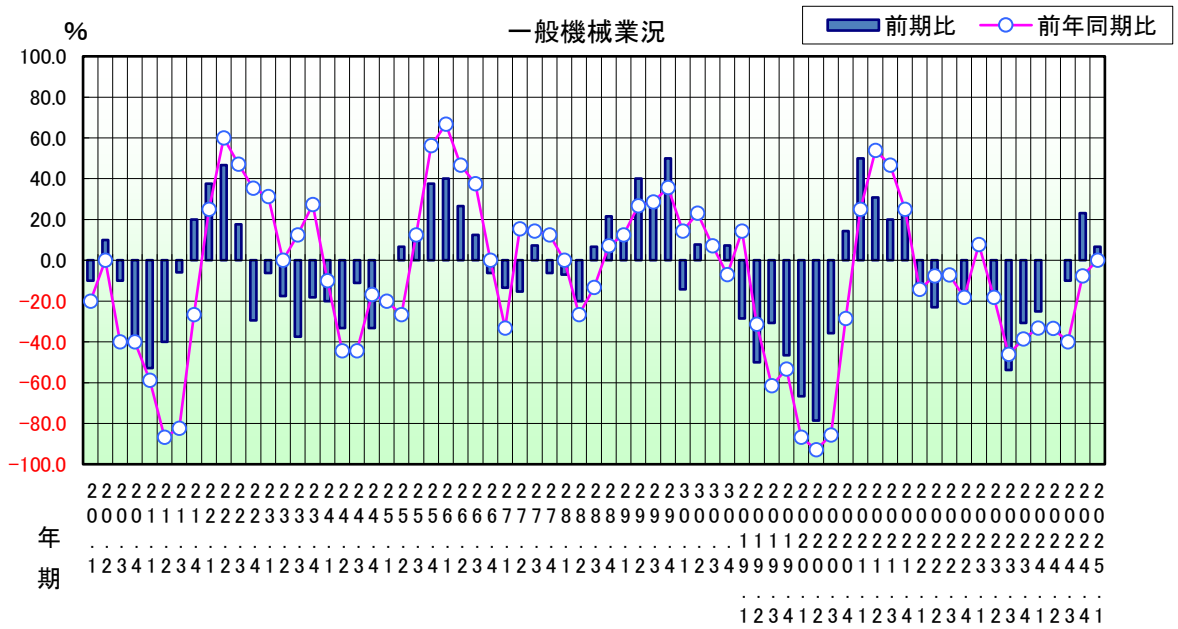

資金繰り
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
年
期

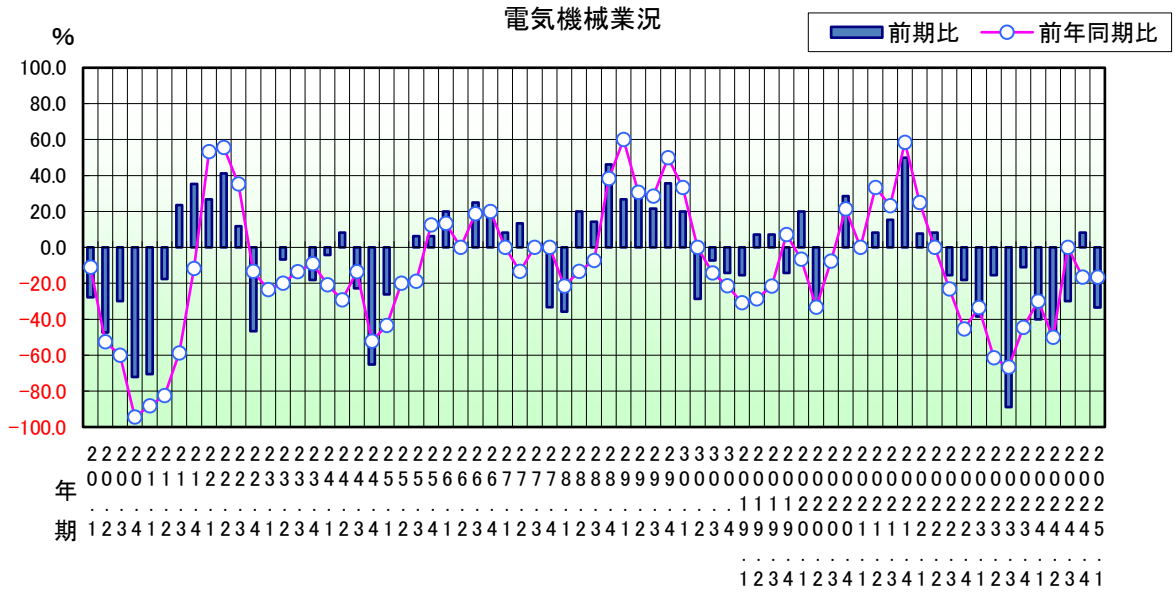

所定外労働時間
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期


収 益 率
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期


食料品･飲料業況
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
−20.0
−40.0
−60.0
−80.0
−100.0
年
期


金属機械業況
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
-120.0
年
期


一般機械業況
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
年
期


電気機械業況
前期比
前年同期比
%
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
-20.0
-40.0
-60.0
-80.0
-100.0
年
期